

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0570106898
法人名	医療法人 惇慧会
事業所名	グループホーム・サラ
所在地	秋田市新屋北浜町21番47号 (電話) 018-823-6711
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年 10月 30日

【情報提供票より】 (21年 10月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成13年 11月 19日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	13 人 常勤 13人, 非常勤 人, 常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,750 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要 (10月 5日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	5名	要介護2	8名		
要介護3	5名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.5歳	最低	64歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	外旭川サテライトクリニック 外旭川病院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは2ユニットからなり、渡り廊下でつながっている。渡り廊下の壁面にはたくさんの絵画が飾られており、利用者はそこを通り自由に互いのユニットを行き来している。各ユニット共、畳敷きの和のスペースを持ち広々としている居間が特徴的である。その居間や各居室の廊下にも絵画や置物が飾られ、その空間で過ごすことで心が癒される。ホームのサービスの向上に繋がるよう職員が一丸となり、ISO9001の認定を取得したり、隣の同法人の施設職員と共同の勉強会を都度行う等、前向きに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で改善課題に対しこの1年真剣に取り組み、事業所としての明確な方針を打ち出すと共に、一つひとつを着実に改善できるよう努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価には全職員が関わり、取り組んでいる。項目によっては深く関わる職員が中心となって検討したり、そこでまた新たな課題を見いだしたり、積極的に取り組みサービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議ではホーム側からの状況報告がほとんどで、主だった討議に進展してはいるものの、定期的な開催はできている。今後は会議のメンバーから様々な意見を出していただけるような進め方を検討している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情は真摯に捉え、職員で十分話し合い最良の解決策を考え解決に導く努力をしている。意見や不安にも丁寧に対応していくことで、ホームとしての質の向上に活かしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	天気の良い日は近くを散歩し、地域の方たちと挨拶を交わし交流を深めている。同法人の隣接する施設での行事にも参加し、そこで地域の方と一緒に楽しむ時間を過ごし連携もとれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしい生活を100%支援し、癒しの空間を作り上げることで認知症の進行をできるだけくい止める」という独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日々の介護を実践していく中で、理念を確認し合い共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の時に挨拶を交わしたり、ホームの行事に老人会の代表者や町内会長を招いている。地域の夏祭りに職員、利用者が参加し積極的に交流を深めていく努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム独自の自己評価表を活用し職員各々が自身の良い面、改善が必要な面を記載する事によ把握できるようにしている。外部評価は前年度分を居間のボードに設置し、常に読むことができるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には民生委員、町内会長以外に本人、家族にも出席していただいている。会議の内容は主に現状報告で留まってしまっているので、今後は様々な意見を出して頂けるよう進行方法を考えている。		運営推進会議は現状で3カ月に1回開催されているが、2ヶ月に1回の開催が望ましく、積極的な開催の働きかけが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は運営上での問題点や介護保険での不明な点を市の担当者にFAXやメールで訊ね、その返事の内容を参考にしサービスの質の向上に努める等、行政との連携は取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームで作成している「まめだより」で利用者の暮らしぶりを家族に伝えている。個別のお知らせは各家族の状況に合わせ、面会時、電話またはFAX等で報告している。金銭管理においても毎月、領収書を添えた出納帳のコピーを郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設けている。面会時にも声をかけ話しの中で意見、苦情を出してもらっている。意見、苦情に対しては職員会議で十分話し合い、より良い改善策や解決策を見いだしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は利用者には特に報告をしないことで、できるだけ不安にならないように配慮している。利用者から訊ねられた時のみ、異動や離職の旨を伝えるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々に合わせた年間の研修計画を立てている他、希望の研修には随時参加できるようにスケジュール調整を行って支援している。法人内での新人研修も計画的に実施されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に入会しており、情報交換の場に参加する努力をしている。他ホームからの職員研修の受け入れも前向きに検討している。		今後は相互訪問の機会を積極的に作ることで更に交流を深め、サービスの質の向上に繋げていくことを期待する。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	サービス利用の相談があった場合は管理者は事前に利用者宅を訪問し、ホームの説明を丁寧に行いホームを理解して頂き不安の解消に努めている。入居前に見学やホームで日中、少し過ごしてみることも進める等、安心してサービス利用できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の長い人生経験からにじみ出る思いやりの言葉や態度に励まされることも多い。また、広い敷地の一面に畑を作り、職員と利用者が一緒に野菜を育て、収穫する喜びを共に分かち合ったり、共に支え合ったりする関係作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「今日は散歩に出たい。」「刺身が食べたい。」といった利用者からの言葉を聞き逃さないようにしている。自分から希望を述べることの少ない利用者に対して、常にその人の気持ちを押し量れるよう、努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	以前の生活ぶりや好みのものを本人、家族との会話から把握し、入居後もその人らしく生活できることを念頭に職員は全員で意見を出し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化時のみならず、日々の状況についても毎日のようにミーティングで意見を出し合い、介護計画の見直しを行っている。		ミーティング時に出された意見を書面にまとめ、介護計画の見直しの根拠となるよう記録として残しておかれるよう希望する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方に住む家族が面会時に宿泊を希望した場合には気兼ねなく、本人の居室に泊まれるようにする等、柔軟な対応で支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営者を主治医として適切な医療を受けられるよう支援している。運営者は医療面からも利用者を適切に支えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者は各々疾患を抱えているが現在は軽度であり、重度化した場合には法人内の関連病院に移り治療を受けられる体制となっている。終末期にも同様の方針をとっており、職員全員が周知している。また、早い段階で本人、家族と話し合い了解を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食べこぼしがあった時など職員は本人の気持ちに配慮し、何気ない仕草で支援している。記録物は事務室のキャビネットの中にしっかり保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れは決めているが決して職員の都合を優先するのではなく、利用者からの希望を聞きながらその希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや片付けなど、自発的に参加している姿が見られる。同法人の栄養士による献立は栄養バランスが良く、時には旬のものも食卓にのぼり利用者は楽しみながら食事を摂ることができている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	入浴前の健康チェックは欠かさず行い、入浴可否の判断材料としている。毎日の入浴、入浴の時間、就眠前の入浴など利用者の希望に合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の散歩や体操で気晴らしをしたり、地域の学生と一緒に楽しみながら作品を作っている。利用者の役割は家事以外に草むしりや観葉植物の管理などがある。また、入居前までお酒をたしなんでいた利用者にはアルコール0%のお酒を時々提供し、楽しんでもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に沿って大型スーパーや市民市場に出かけている。衣類など大きな買い物は2ヶ月に1回の計画を立てて支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	居室に鍵はなく、玄関も日中は鍵をかけずに過ごしている。利用者が一人で外出することは滅多にないが、職員は常に気を配り危険のないようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を行っていきざという時の対応方法は身につけている。地域の方の協力も得て、避難経路を作成している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの一日の食事量、水分量を把握し、体調管理や異常の早期発見に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体は掃除が行き届き、衛生的な環境となっている。洗面所やトイレも気持ち良く整理整頓がなされている。居間は天井が高く、広い空間が特徴的であり季節感のある飾り付けもされている。利用者は思い思いの場所で寛いでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は以前から使っていた箆笥を持ち込んだり、好みのカレンダーや家族の写真を飾ったりして居心地の良い居室を作っている。		

※ は、重点項目。